

こども新聞 週刊がほピョンプレス

毎週日曜発行 2025 10/5

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうのテーマ

亀山さんは神奈川県横須賀市出身で、1995年に宮城県に移住後、2



みんなは陶芸体験をしたことはあるかな？ 手作りの器はぬくもりがあつて愛着が湧くよね。陶芸家も使う人のことを考えて、心を込めて作っているんだよ。宮城県石巻市三輪田で「三輪田窯」を構える陶芸家の亀山英児さん(51)に、どんな風に作品を作っているのか聞いたよ。



陶芸家

004年に三輪田窯を始めました。修業時代も含め陶芸歴は30年。「陶芸は焼き上がりをイメージしながら、一つ一つの工程を進めることが大事です」と説明します。

最初の工程は「土造り」です。亀山さんは石巻市桃生地区周辺の山で取

粘土と、火に強い粘土を混ぜて作ります。ビニール袋に入れて1カ月以上寝かせると粘りが出ます。

次は、ろくろを使って行う「成形」です。円盤の台の上に粘土を置き、回転させながら手指を器用に使って形を整えま



す。上手に作ることは「芯(物の真ん中)を出すこと」。粘土の中心がずれてしまうと厚みや高さが均一にならず、思い通りの形になりません。形が整い、乾燥したら①約800度の窯で18〜20時間ほど素焼きする②石の粉やホタテの貝殻をろくろを回して形を整える亀山さん9月2日、宮城県石巻市三輪田

焼いて作った灰などを混ぜた「釉薬」をかける。といった作業を進め、再び窯に入れます。

これは「本焼」と呼ばれる工程です。約1210度の超高温で、25〜26時間かけて焼き上げます。熱で溶けた釉薬はガラス状になって器の表面を覆い、焼く前とは全く違う色味や光沢を生み出してくれます。



成形の工程からここまで早くて1カ月。どのような作品に仕上がったかは、窯の扉を開ける瞬間まで分かりません。

亀山さんは「注文品なら『失敗できない』というプレッシャーがあります。でも釉薬や焼き方を工夫すると思いがけない作品が出来上がることもあり、そのときは陶芸の面白さを実感します」と話します。

一つの工程に心込め

この日 何の日

◇6日(月) 夢メッセみやぎ開館30周年
1995年のこの日、21世紀を見据えた産業、貿易振興の拠点施設として、県が仙台市宮城野区に設置しました。正式名称はみやぎ産業交流センター。大規模な展示会や商談会、音楽イベントが開かれています。

きょうの紙面

- 2面 作って遊んでサイエンス
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 亀山英児さんに聞く

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ